

上川アイヌにおける建築文化の伝承に関する研究 —復元チセの建設に着目して—

建築学専攻
建築史研究

MJ22143 山根 佑介
指導教員 岡崎 瑠美

1. 研究背景と目的

研究対象地である上川・旭川地域では、上川アイヌの生活や文化の保存と伝承を目的として、1910年代から現在までアイヌの伝統的な住居であるチセの復元が継続的に行われている。

しかし近年、チセづくりを担ってきた文化伝承者の減少と後継者不足が、今後の文化伝承にとって大きな課題となっている。近年では、旭川市富沢のにあった老朽化した復元チセが管理者の不足により建物の維持が困難となり、解体された。復元チセは、チセづくりの文化伝承の場となるだけでなく、アイヌの生活を知るための重要な教育文化施設となっている。復元の機会の減少によってそれらの貴重な場所が失われつつある。

本研究では、まず全国における復元チセにおける伝承の全体像を明らかにする。そのなかで特に、笹葺きのチセづくりの伝承が行われている上川・旭川地域における復元チセの変遷と、チセづくりに見られる伝承を明らかにする。また現存する復元チセの記録を作成することにより、今後のチセの復元と文化伝承に役立てることを目的とする。

本研究では北海道旭川市、鷹栖町、上川町を「上川・旭川地域」とし、この地域に居住するアイヌ、この地域のアイヌ文化の伝承を担い上川アイヌと自称する人々を「上川アイヌ」と定義する。

2. 研究手法

(1) 文献調査

上川・旭川地域を中心として、復元チセに関する資料（伝承者の記録、建て方の記録、文化再現マニュアル等）の収集を行い、復元チセの時代背景や特徴を把握する。

(2) ヒアリング調査

復元チセの文化伝承者や管理・運営を担っているアイヌ文化振興に関わる人たちへのヒアリングを通じて、現在、上川・旭川地域で伝承されている笹葺きチセに見られる伝承と復元チセの現状や課題を明らかにする。

(3) 実測調査

以下3つの手法により復元チセの記録を行い、二次元及び三次元のデータを作成する。

- 手実測
- 写真測量（フォトグラメトリー）による3Dモデルの作成
- レーザースキャナーを用いた点群データの収集

3. 全国における復元チセの伝承

これまでに23施設において71棟のチセが全国で復元されている。そのうち20施設が道内の施設であり、主に「上川・旭川地域」、「平取・二風谷地域」、「白老地域」の3つの地域に復元され、継続的に再建されてきた。その他の地域の復元チセは、「その地域の伝承者によって復元されたチセ」と、先に述べた「3つの地域の出身者によって観光や文化保存を目的に復元されたチセ」に大きく分けることができる。23の展示施設は主に私立の博物館、記念館と公立の博物館、記念館、自然公園であり、展示の形態は、大きく室内と屋外展示の2種類に分かれる。

復元チセの外装材は茅葺きと笹葺きの2種類が存在し、文化伝承者によりそれぞれづくり方が異なる。

上川・旭川地域では笹葺きの復元チセのづくり方が伝承され、笹葺きの復元チセが一般的となっている。二風谷、白老地方に伝わる茅葺きの復元チセのづくり方は、文化伝承者やアイヌ団体、地方自治体によって記録としてまとめられ、特に二風谷地域では、チセの復元の頻度が高く、若い人が技術継承に携われる環境が整えられている。

一方で、復元チセの棟数が少ない地域や、文化伝承者の少ない地域では、復元チセの運営・管理の問題や後継者の不足によって解体されている復元チセが多く存在する。

4. 上川アイヌの復元チセの実態調査

上川・旭川地域においてこれまでに少なくとも26回チセが復元されてきたことがインタビューや文献から

明らかとなった。これらの復元以外にも屋根の外装材の補修などが行われており、伝承活動の機会は復元回数よりも多い。復元された全てのチセは笹葺きのチセであり、復元を通じて笹葺きの伝承が行われている。

本地域において文化保存・伝承を目的として最も早期に建てられたのは、1916年に川村イタキシロマによって川村カ子トアイヌ記念館の場所に建てられたチセである。最も多くの復元チセが建てられてきたアイヌ文化の森・伝承のコタンでは、1956年の最初の復元から現在に至るまで建設ごとに指導役が決められ、彼等を中心として伝承が行われてきた。2024年1月現在、上川・旭川地域には4つのアイヌ文化関連施設に6棟の復元チセが展示されている。

表1 上川・旭川地域に現存する復元チセ

No	復元住居名	所在地	建設年
1	嵐山ポロチセ	アイヌ文化の森・伝承のコタン	2022
2	嵐山ボンチセ	アイヌ文化の森・伝承のコタン	2017
3	嵐山ボンチセ	アイヌ文化の森・伝承のコタン	2009
4	旭川市博物館チセ	旭川市博物館	1993
5	川村カ子トアイヌ記念館チセ	川村カ子トアイヌ記念館	2005
6	上川チセ	旧・北の森ガーデン	2016

復元作業の実態調査を行った嵐山ポロチセ(2022)と上川チセ(2016)の2つのチセの比較より、伝承者が異なることから建設の際に使用するモジュールが異なりそれが形体に違いをもたらしていることが明らかになった。一方で、三脚構造(ケトゥンニ)を中心とした小屋組み構造や、窓の配置、建設時の男女における作業分担等は共通している。どちらのチセも課題として自然材料の調達が困難であることが挙げられ、規格化された木材の仕様や、工業製品の使用が復元作業の過程や建物の形状に変化を与えている。

5. 復元チセの図面化と3Dモデル化

現地調査を行った復元チセを対象として、図面(図2)と3Dモデル(図3)の作成を行った。写真測量による記録は、復元チセの不成形な笹葺や丸太材を正確に記録することができるため記録手法として有効である。嵐山ポロチセは建設時に写真計測を行い、軸組の

3Dモデルを作成し、モデルを切断することにより平・立・断面図を作成した。

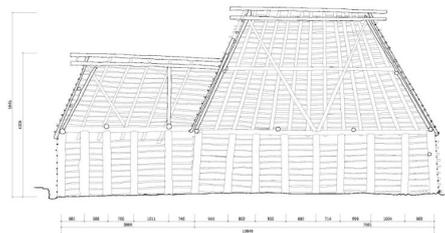


図2 嵐山ポロチセの断面図(3Dモデルより作成)



図3 嵐山ポロチセの東側正面立面図(3Dモデルより作成)

今後もアイヌ建築文化の担い手不足という状況の中で、復元チセの伝承者(棟梁や復元経験者)以外の初めて建設に携わる若者やボランティアがアイヌ建築文化を実践的に学びながら建設に携わっていくことが求められる。その際図面や3Dデータを活用することで、アイヌ建築文化やこれまでの復元チセの建設の様子を正しく、参照しやすい形で伝えることが重要である。

6. 結論

上川・旭川地域における復元チセは、1910年代から現在まで計26回の建設が文化伝承者を中心として行われてきた。しかし現在、伝承者の減少と後継者の不足、自然材料の調達などの課題が生じている。本研究では建築図面及び3Dモデルの作成を行い口頭伝承の補足となる資料の作成を行った。

参考文献

1. 市立旭川郷土博物館,アイヌ文化の森「伝承のコタン」年報I,市立旭川郷土博物館,1975
2. 旭川竜谷高等学校郷土部,上川アイヌの研究--伝承者と生徒たちとの交流記録,日本私学教育研究所,1990
3. 由良勇,チカプニコタンのウラッチセ,マルヨシ印刷株式会社,2006